

---

ARCADIA ver1.00 **スウィフト幹事の憂鬱**

Wiz Craft

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

A R C A D I A   v e r 1 . 0 0      スウィフト幹事の憂鬱

### 【Nコード】

N 1 6 9 5 Z

### 【作者名】

W i z   C r a f t

### 【あらすじ】

強引な手段で押し付けられた幹事。ステイアルーフを舞台にホワイトガーデンとアルケミストの合同飲みを取り仕切るスウィフトの幹事奮闘録。果たして、彼は無事に飲み会を成功させることができるのか？

## 幹事×任命

右手を上げて首を傾げるスウィフトはある疑問を抱えていた。

「なんで僕なんですか」

スニーピーは敢えて理由を答えなかった。

任命するにあたって確証に足る理由など存在しなかったからだ。

「もう一度聞きますけど、何で僕なんですか」

「二度はくどいぜスウィフト。先輩の言う事は素直に聞くもんだ」

コミュニティルームのソファに横たわるケヴィンにとっては他人事。

彼の普段の役目は他人の会話に割り込んで適当に水を差すことに他ならない。

スニーピーは状況的に切り出すには丁度いいタイミングだと判断したのでろう。

「それじゃ、説明するよ。スウィフト。やってもらいたいことって  
いうのは、さつきも言った通り飲み会の幹事なんだけど。幹事って結  
構、段取りとか色々考えるのすごい重要なポジションだからさ。新  
入りの中で何となく一番適性あるの君っぽいから」

スウィフトは反論する。

「エルツでもいいじゃないですか」

「エルツは個人主義者っていうか、あんまり他人のこと考えるの得意そうじゃないし。ねえ、頼むよ。上手く立ち回ってよ。できるで  
しょ?」

スウィフトは首を傾げたまますぐには頷かなかった。

だが断りを入れる前に、スニーピーは予告通り説明を始めていた。

「飲み会だけど、まず決めなくちゃいけない項目が幾つかある。そ  
れはMAX人数・箱の候補上げ・予約状況の確認とかね。こちら辺

の大枠を決めなくちゃいけない」

「話が進行してはいますが、僕はまだやるとは」

「場所だけど、中央広場の屋台市でいいと思う」

場所は屋台市と告げられ、スウィフトは逃れようのない術中にはまっていることをじわじわと悟っていく。

「次、人数だけど大体三十名くらいかな。普段何かと交流のあるコミュニティ Alchemist と合同開催しようと思ってるんだ。向こうも新規加入者もいるみたいだし、互いに新人の顔見せも兼ねてさ」

「それなら、なおさら何で僕がやらなくちゃならないんですか」

「自分の披露目なら自分で演出した方が何かとやりやすいんじゃない？ 新人が幹事やってるなんて相手にポジティブな印象与えるし、評価高いよ」

「歓迎される側が幹事やるなんて聞いたこともありませんよ。体よく難儀な仕事を押し付けようとしているんじゃないやありませんか。早く幹事っていうポジションから解放されたいだけとか」

「鋭いね。その通りだよ」

開き直りやがった、スウィフトの心の声が静かに響く。

「まずはMAX人数を割り出す為に、うちと Alchemist のメーリングリストにお誘いメール投げてよ」

「わかりましたよ。で、メールの詳細文面は？ それもこちらで考えるんです？」

「まず、こういう日時にこんなイベントやります。イベント内容については合同飲み会ってことはあらかじめ双方に伝わってるんで一言でいいよ。その上で、PBのスケジュール調整サイト使って、日時候補を挙げて皆の都合を聞く。あとは皆の入力を待つだけさ。皆の入力が終われば、ソフトの方で自動的に最適な日時の候補を挙げてくれるから。その中から選んだ日時に参加可能な人数がMAX人数だと思えば良いよ」

忘れないようにメモを取るにはスウィフトの良い癖だ。

「では、その調整サイトのURLは教えて頂くとして、それとも検索すれば出てきます？ まあ、いいや。次に箱ですが、これはどうしましょうか」

「そうだね、それを考えるのも君の仕事の一つなんだけど。まず差し当たりないところで行けば、屋台市かな。鳥座とか連福とか比較的席数が多いところがいいと思うよ。次に有力なのはDIFOREを貸し切るか。ただあそこはMAX100名の箱だから、半貸切でいいと思う。例えば、パーティションで区切ってくれるし。できればカウンター席も付けてもらって、とかそこら辺の調整については皆の希望をとってね」

スニーピィの微笑にスウィフトはただ溜息を吐くばかりだった。

White Garden x Alchemists 合同飲み会のお誘い

TO: ALL (White Garden x Alchemi  
sts)

FROM: Swift (xxxxx@xxxxxxxxx.  
xxxxx)

この度は、ホワイトガーデンとアルケミストの合同飲み会を開催  
させて頂く運びとなりました。

わたくし、幹事を務めさせて頂きますスウィフトと申します。  
よろしくお願い致します。

さてさて、堅苦しい挨拶は抜きにしたいのですが、まず両コミュ  
ニティから参加希望を募りたいと思っております。

大変、お手数ですが本メールを受け取りましたら下記のアドレス  
にアクセス頂き、候補日の予定について入力ください。

http://xxxxxxxxx.xxxxxx.xxxxxx/xxxxx/  
xxxxx/xxxxx/xxxxx/xxxxx/

以上につきまして、よろしくお願い致します。

Reply: ALL-LIST

Alchemists List

? Aries    \*\* / \*\* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
/ \* \* , \* \* / \* \*

? Focus    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
/ \* \* , \* \* / \* \*

? Freebel    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* ,  
\* \* / \* \* , \* \* / \* \*

? Grace    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
/ \* \* , \* \* / \* \*

? Hunk    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
\* \* , \* \* / \* \*

? Hydric    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
? Lala    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
\* \* , \* \* / \* \*

? Leo    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
? Mark    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
\* \* , \* \* / \* \*

? Salon    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
\* \* / \* \* , \* \* / \* \*

? Silvino    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* ,  
\* \* / \* \* , \* \* / \* \*

? White Garden List

White Garden List

? Shuraku    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* ,  
\* \* / \* \* , \* \* / \* \*

? Chopper    \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* ,  
\* \* / \* \* , \* \* / \* \*

? Donatello      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* ,  
 \* \* / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Elz      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* ' \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Franc      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Kevin      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Lins      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Sneepy      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Orga      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Rebelt      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* \* / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Swift      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Yumiru      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* / \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 ? Will      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*  
 \* \* , \* \* / \* \*      \* \* / \* \* , \* \* / \* \* , \* \* / \* \*

## 候補日の割り出し

スウィフトは悶々としていた。

エルツはそれを傍から静観していた。

リンスは心配そうだったが敢えて近寄ろうとはしなかった。

「彼は一体何をあんなに悩んでるんですか？」とエルツの素朴な疑問にスニーピイは首を傾げる。

「悩めるお年頃だから。ああ、やって鬱積とした感情を抱えて自己解決していくことで成長していくんだよ」

きつとそうに違いない、とスニーピイは語る。

エルツは納得した。だがリンスは納得しなかった。

恐る恐る彼に近寄った彼女はそっと声を掛ける。

「何をそんなに悩んでいるの」

「いや、傍観者の会話が丸聞こえだったから。中でも一人の台詞が頭に來てね。一体誰のおかげでこんな状況になったと思ってるんだか」

当然スニーピイは素知らぬ振りをする。

その間にエルツはスウィフトのPBを覗き込んでいた。

「これって、この間MLに流してた飲み会の返事？ へえ、こんなに来るんだ。全部で三十人くらいか」

「二十五人だよ」

「失礼、確かに幹事たるもの正確に数字を把握しとかないとね」

「いやいやとスニーピイは首を振る。」

「あんまり、がちがちに数で把握するのもどうかなあ。人数って結構変動するから。MAX人数ってあくまで想定値であって実際はドタキャンやら病欠やらで変動するぞお」

「あなたは本当に意地悪な人だ」

「ありがとう」

笑顔で言葉を交わすスイフトとスニーピーを笑顔で見守る一同。

「疲れた。さつさと候補日決めちゃおう。そうか、実際はこの二十五人から希望日から外れる人が出てくるのか。自動候補日・選出ボタンを押して、と」

調整ソフトは正確に統計を取り、無慈悲に希望者を切り捨てる。

「\*\*/\*\*が良さそうだね」

「ああ、空いてるよ。\*\*/\*\*なら。しょうがないなあ。いつてあげるか」

「あなたはこなくても良かったんですけどね。本当に。心から言ってる」

「候補日決めたならさつさとALLに投げてよ。仕事が遅いぞスイフトくん」

「言ってくれますね」

実に無益で感情的なやりとりが続く。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1695z/>

---

ARCADIA ver1.00 スウィフト幹事の憂鬱

2011年12月9日01時12分発行